



松野町教育振興に関する大綱

～学び合い未来へ紡ぐ人づくり～



「奥内の棚田 遊鶴羽地区」

平成28年4月

愛媛県 松野町

【はじめに】

平成 27 年 4 月 1 日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」により、首長と教育委員会を構成員とする「総合教育会議」の設置が義務付けられ、「教育振興の大綱」を定めることとなっています。平成 27 年 7 月に第 1 回松野町総合教育会議を開催し、大綱の策定等についての協議を行いました。松野町では、平成 27 年度から平成 36 年度までの「第 5 次松野町総合計画」が平成 28 年 3 月に策定予定とされており、町のあるべき姿を総合的にとりまとめることから、第 1 回総合教育会議において、その教育分野の項目、内容を大綱として位置付けることといたしました。総合計画は行政を推進する上でも、最高位の事業計画として位置づけられており、その計画の教育部門は、教育振興の大綱と同様のものと認識しています。今回、「第 5 次松野町総合計画」が策定されたことに伴い、教育部門を抜粋し、松野町教育振興に関する大綱として策定するものであります。

平成 28 年 4 月 15 日

松野町長 阪 本 壽 明

～学び合い未来へ紡ぐ人づくり～

本町では、自然に感謝し自然との共生を目指す「人心緑化」精神を、教育の基本理念として位置付け、普及啓発に取り組んでいます。また、国指定史跡で県内屈指の中世城郭「河後森城跡」や、国の重要文化財で江戸時代の山境争いに関連する「目黒山形関係資料」、県指定天然記念物「逆杖のイチョウ」や「蔵王神社のイチイガシ」、さらには昭和初期の天才俳人「芝不器男」を輩出するなど、貴重で個性的な歴史文化資源にも恵まれており、これらの保存と活用が求められています。

子供たちの数は、過疎化と少子高齢化により、残念ながら年々少なくなっています。しかし、地域の特性を生かした教育を推進し、子どもたちがふるさとの良さを感じることのできる教育環境を実現するとともに、地域を担う宝物である子供たちの健全育成のため、学校、保護者、地域住民の 3 者が連携、協力し、一体となり学校教育を実践しなければなりません。

また、住民の健康や生きがいを支える役割を担う生涯学習の充実や生涯スポーツの普及に取り組むとともに、先人から受け継いだ有形無形の文化財や歴史文化資源も、そのままの形で後世に引き継ぐことも大事です。

私たちの価値観の根本を形成する教育とこれまで紡がれてきた歴史文化が「森の国」のアイデンティティを形成しています。その理念は後世に受け継がれるものです。

【振 興 方 針】

1 学校教育

人心緑化の基本理念を重視し、ICT（情報通信技術）を活用した教育や外国語教育など時代に即した教育の実践を通して、心豊かでたくましく生き抜く力を育む教育を積極的に推進します。

2 生涯学習

中央公民館を中心とした生涯学習ネットワークを構築し、プログラムや受講機会の拡大、幅広いニーズに対応した企画の充実を図ります。

3 生涯スポーツ

コミュニティスポーツの拠点づくりを進め、指導者の養成や団体への支援を実施します。

4 人権教育

人権が尊重される社会の創造のため、町民一人一人の心に響く教育活動を積極的に推進します。

5 文化振興

郷土の歴史文化に触れて理解を深める機会を創出するとともに、後世へ引き継ぐことのできる基盤づくりに努めます。

6 文化財保護

貴重な文化財の保存と活用に努めるとともに、見学会や体験学習会、展示会などを実施して歴史や文化を身近に感じる機会を提供します。

1 学校教育

現状と課題

- ・全国的に児童生徒のいじめや非行などの問題が多発しており、学校現場で教育環境を脅かす凶悪な事件も頻発しています。
- ・少子化によって児童生徒の数が減少しており、集団の中で協調性を身につけ、個性を發揮して切磋琢磨するなど、成長するための経験の場が限られています。
- ・各小学校の学校施設の老朽化が進んでおり、維持や改修に多額の費用が必要となっています。
- ・情報化や国際化への対応など、専門的な教育カリキュラムが要求されています。
- ・地域を素材にした学習や地域住民との連携により、郷土を愛する心を育む教育の実践が求められています。
- ・共働き世帯やひとり親世帯の増加により、放課後や休日の児童のケアが重要となっています。

目指す姿

人心緑化の基本理念を重視し、ICT（情報通信技術）を活用した教育や外国語教育など時代に即した教育の実践を通して、心豊かでたくましく生き抜く力を育む教育を積極的に推進します。

施策の方向性

- ・子ども達が安全に安心して学ぶことのできる教育環境の整備に、学校・家庭・地域が連携して取り組みます。
- ・基礎学力の向上のため、各学校で教科の基礎・基本の定着に向けた取り組みを推進していきます。
- ・ICTを積極的に活用し、学習から情報発信まで幅広い取り組みを推進します。
- ・国際化にも対応できる教育を推進するとともに、都市部や海岸部の学校との交流を促進し、視野の広い児童生徒の育成に努めます。
- ・学校規模のあり方を検討するとともに、教育施設や設備の大規模改修を計画的に実施し空き教室など、教育施設の総合的な利活用を検討します。
- ・ふるさとを題材とした体験学習や、地産地消を取り入れた食育の推進を通して、松野の良さを知り、松野を誇りに思い、松野を愛する生徒を育み、将来、「松野に住みたい」「松野で働きたい」「松野の役に立ちたい」子どもたちを育成します。
- ・専門的知識や経験を有する団体や個人の協力を得て、先進的・専門的な内容の多様な授業を実施します。
- ・児童生徒の登下校時の安全を確保するため、防犯灯の設置や防犯ブザーの配布などとともに、周辺の住民による子どもを守り育てる活動を強化します。

2 生涯学習

現状と課題

- ・住民の生活様式の多様化や情報技術の進展により、時代に対応した生涯学習のメニューが求められています。
- ・自分たちの地域は自分たちで守ろうという住民意識の高揚により、それぞれの地域の特性を理解し活用しようとする自主的な取り組みが始まっています。
- ・高齢化の進行に伴い、高齢者を対象とした趣味の講座の開設、レクリエーションやスポーツの普及が要望されています。
- ・地域ごとの生涯学習の取り組みにおいて、開催頻度や参加人数等にばらつきが見られます。
- ・社会教育施設、コミュニティ施設の老朽化もみられ、維持、管理を検討すべき状況にあります。

目指す姿

中央公民館を中心とした生涯学習ネットワークを構築し、プログラムや受講機会の拡大、幅広いニーズに対応した企画の充実を図ります。

施策の方向性

- ・中央公民館・地区公民館・分館で役割を分担する公民館のネットワークづくりを行います。
- ・情報技術が加速度的に進展する中で、時代のニーズに即応した生涯学習のメニューづくりを実施し、住民の参加する機会を大きくします。
- ・幅広く、かつ、細やかなニーズに対応した学習講座など、多様な生涯学習のプログラムを編成します。
- ・分館ごとに生涯学習を推進するため、コミュニティリーダーの育成と支援を実施します。

3 生涯スポーツ

現状と課題

- ・町民の趣味や価値観が多様化したことや、少子高齢化などに起因する人口減少に伴い、特にチームスポーツや競技スポーツの活動が低下しています。
- ・体育指導委員会がスポーツやレクリエーションの普及にあたっていますが、専門的知識や技術の面で対応しきれていない場合があります。
- ・幅広い世代が一緒に楽しんで交流を深めるコミュニティスポーツの機会が不足しています。
- ・人口減少の影響により、伝統ある地区対抗のスポーツ大会の存続が危ぶまれています。

目指す姿

コミュニティスポーツの拠点づくりを進め、指導者の養成や団体への支援を実施します。

施策の方向性

- ・地域の特性を活かして住民が自主的に運営する地域スポーツクラブの設立を検討します。
- ・新しいスポーツの導入に努め、指導者の養成確保と愛好者団体の支援、育成を行い、スポーツによる地域づくりに努めます。
- ・体育協会を中心とした競技団体等と協働し、適切な時期をみながら県内のスポーツ大会誘致や県域の交流大会を企画・運営することによって、スポーツ人口の掘り起こしに努めます。

4 人権教育

現状と課題

- ・差別意識の解消を目指して全町をあげて人権・同和教育に取り組み、成果を上げてきましたが、完全解消には至っていません。
- ・社会的弱者や外国人に対する差別や偏見も、一部では見受けられます。
- ・学校と家庭、地域社会の相互理解と連携による総合的、系統的な研修や学習が必要です。

目指す姿

人権が尊重される社会の創造のため、町民一人一人の心に響く教育活動を積極的に推進します。

施策の方向性

- ・児童生徒の発達段階に応じた体系的な人権教育を実施します。
- ・人権教育協議会松野支部やいじめ問題等対策協議会など関係団体と連携して、基本的人権が完全に保障される社会の実現を目指します。
- ・各種の学習会の開催を通して、人権に関する正しい理解と認識を普及します。

5 文化振興

現状と課題

- ・地域の貴重な資源である有形無形の文化財について、住民の理解や認識が十分とは言えません。
- ・後継者の不足によって、伝統文化の保存継承が困難になってきました。
- ・地理的条件が不利なため、音楽や演劇など優れた芸術を鑑賞する機会が非常に限られています。
- ・小中学校では俳句を素材にした教育に積極的に取り組んでいますが、一般町民にはあまり広がっていません。

目指す姿

郷土の歴史文化に触れて理解を深める機会を創出するとともに、後世へ引き継ぐことのできる基盤づくりに努めます。

施策の方向性

- ・郷土の文化について理解を深めるシンポジウムや講演会を開催します。
- ・文化協会を中心とした、芸術、芸能活動を実践する団体の育成、支援を行い、文化活動の振興を図ります。
- ・広域事務組合や近隣市町と連携し、住民が一流の芸術文化や歴史に触れることのできるイベントを開催します。
- ・不器男記念館を核として、俳句にちなんだイベントの開催や投句作品の展示など多様な催しを展開し、俳句の振興と町内の俳句人口の増加を目指します。
- ・伝統芸能保存の体制づくりの支援を行い、地域文化保存伝承の取り組みを推進します。

6 文化財保護

現状と課題

- ・ 県下でも屈指の文化財である国指定史跡河後森城跡の保存・整備に取り組んでいます
が、さらに保護と活用に努める必要があります。
- ・ 国指定重要文化財である目黒山形関係資料や河後森城跡からの出土品を、状態よく保
存・展示するための施設が必要となっています。
- ・ 景観計画において町内全域が文化的景観として位置づけられていることから、これを
総合的に把握し、今後のまちづくりに活かしていく必要があります。
- ・ ボランティアなど住民が文化財の保護と活用に参画しやすい環境を整えることが求め
られています。

目指す姿

貴重な文化財の保存と活用に努めるとともに、見学会や体験学習会、展示会などを
実施して歴史や文化を身近に感じる機会を提供します。

施策の方向性

- ・ 河後森城跡での見学会や体験学習会、出土品の展示会を開催し、住民の理解や関心を
高めます。
- ・ 目黒山形関係資料の活用を図り、文化的景観の調査と連動させながらその重要性が広
く周知される取り組みを推進します。歴史資料の系統的な収集、保存を図り、一般向
けの展示や学校教育での活用に努めます。
- ・ 森の国山城の会など、ボランティア団体の参画を得、各種体験活動を通して、河後森
城跡の手作り復元や整備を進めていきます。
- ・ 町内に残る貴重な自然・歴史・生活及び生業を段階的に調査研究し、国の重要文化的
景観の選定に向けた取り組みを推進します。
- ・ 町域の文化財及びその周辺環境について、未指定文化財も含めて総合的に把握し、関
連文化財群のエリア設定を行います。これをもとに、各エリアの文化財という側面か
らの保存・整備・活用の方向性とまちづくりの基本方針を示すため、歴史文化基本構
想の策定をめざします。